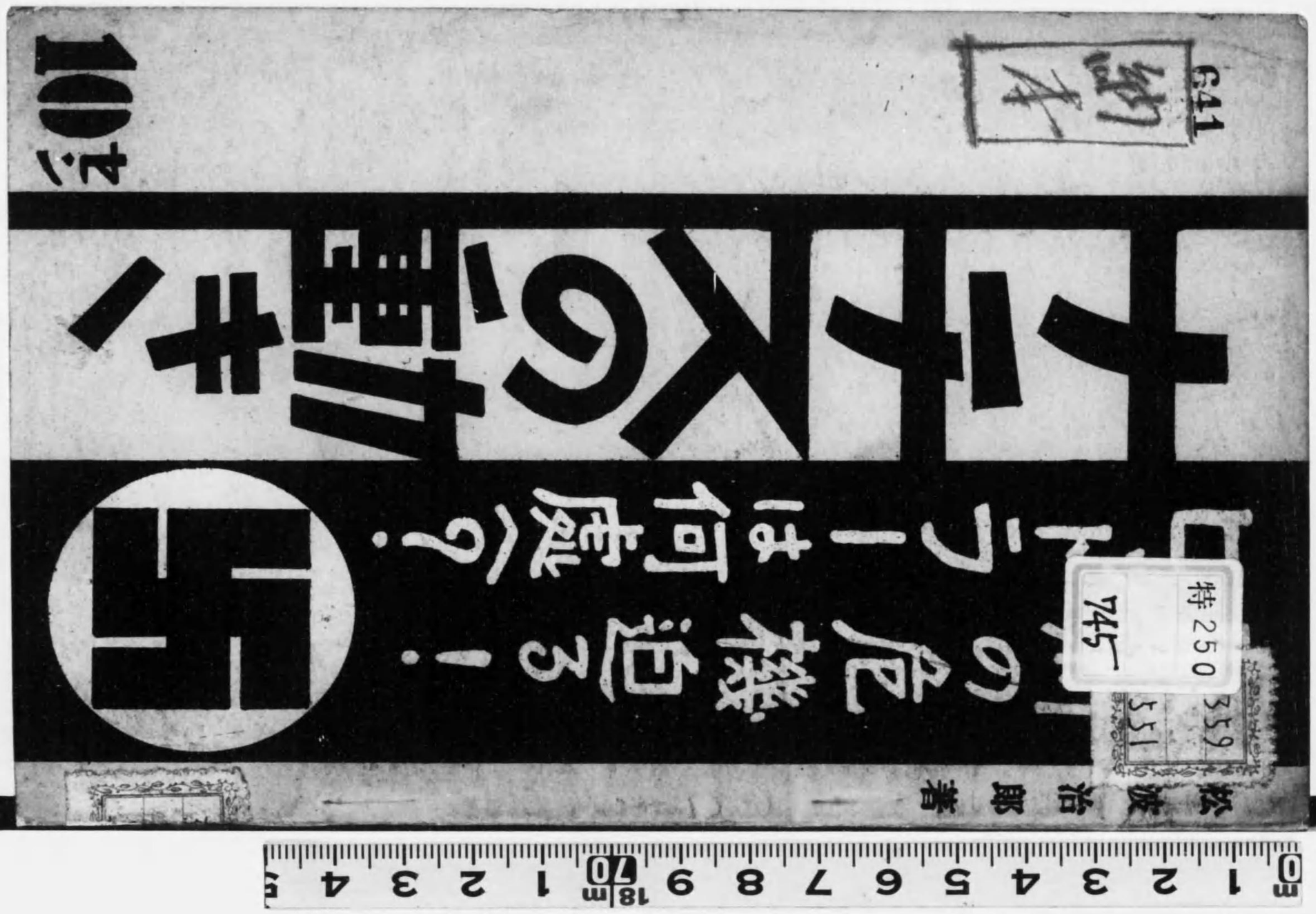

641
特250
745
359
551

特250
745

完全な精神的一致

ソ聯の對日諷刺漫畫

ソ聯は、今や東からは恐日病、西からは恐獨病に襲はれ戰々兢々としてゐる、その結果は頻に心に惡魔を描いてゐる、ソ聯邦内の新聞紙等には澤山の日本諷刺漫畫が揭げられてゐるが、其の多くは恐日恐獨病の現はれに外ならない、玆に紹介するものは「完全な精神的一致」と題して赤軍機關紙が揭げた新聞漫畫で、日本と獨逸のナチスとが反ソ聯的行動に於て完全に一致提携してゐるといふ諷刺漫畫である。

ナチスの動き

—目次—

○歐洲の危機迫る！……（一）
○ヒンデンブルグ元帥の遺書……（七）
○ヒットラー總統就任……（九）
○ヒットラー國首の宣言……（一三）
○ヒットラーとムッソリニの秘密會見……（一五）
○ヒンデンブルグ元帥の經歷……（一九）
○タンネンベルグの大勝……（二二）
○ナチスの焚書とナチス藝術……（二四）
○ヒットラーとは何者ぞ？……（二六）
○ヒットラーの戰動……（三三）
○失明したヒットラー……（三五）

原國會圖書館藏

○帝政の沒落とヒットラー……(三六)
○ヒットラー將校になる……(三八)
○勞働黨參加は足場……(三九)
○ヒットラーの時世觀……(四一)
○ナチス二十五ヶ條綱領……(四三)
○ギャの急轉光線の形の紋章……(四八)
○ヒットラーとフランス……(四九)
○ナチス清黨强行……(五三)
○ザールの人民に叫ぶ……(五六)
○ナチス陣營强化成る……(五八)
○風樓に滿つる中歐……(六〇)

ナチスの動き

歐洲の危機迫る！

今年八月二十四日に終了したイタリー・ロンバルヂア平原を背景としたイタリー陸軍大演習に全軍を統監したイタリー・ムツソリニ首相は、ドイツやユーゴスラビア其他外國觀戰武官を前にし乍ら、演習參加のイタリー將官に、正に「歐洲の危機迫る！」と熱辯を振つたのだ。

曰く、

戰爭を望むものは誰れも居ないが、戰雲は現に歐洲の天地にみなぎつて、何時爆發するか判らない。吾々は、明日の爲めに、戰爭の準備をするのではなく、正に今日の爲めに戰ひの準備を整へねばならぬ。我々は今後イタリー國民を軍人精神を以て鍛へ上げねばならぬ、國家が興るも亡びるのも、一に此の軍隊的な團結の强弱による、召集令が下つた時、全イタリー國民は

一つとなつて祖國の爲めに奮起せねばならぬ。

とだ。果して、此のムッソリニ首相の聲明は、オーストリアを中心とする中歐政局の葛藤を告白するものとして、非常なセンセイションを捲き起して居る。

――が、此處に最も注目すべきは、獨逸と伊太利との關係なのだ。

オーストリア、ナチスの叛亂以來と云ふものは、オーストリアを中心として、獨逸と伊太利とは、實に不氣味な睨み合ひを續けて居るのだ。それこそ、何時、爆發するか判らない戰雲であるのだ。

しかも、イタリー政府が執つた、オーストリア問題に對する强壓的態度は、ドイツ、ナチスをして極端に憤激せしめたのである。

だから、ドイツ、ナチスの過激分子は、テロ行動を目標として、續々と目下イタリー國内に入り込みつゝあるのだ。

これに驚いたイタリー政府は、極力ナチス不穩分子の掃蕩に盡力し、その爲めに忙殺されて

居るが、ナチスの腹の底に沁み込んだ憤激は、こんな事位にはびくともしないのである。

ナチスは其の極端な過激分子で、既に特に「テロ陰謀團」を組織して、イタリー政府に一泡吹かせてやる計畫を着々と進めて居ると傳へられて居る。

しかも最近、イタリー政府が、ローマで、ドイツ人ナチス三人を逮捕した處が、此の三人共に恐るべき爆彈を所持して居たと云ふ。これに依つても、ドイツ、ナチスは深刻にイタリーにテロ行動を敢行しやうと、續々浸入して居ることが判るやうに、やがて、此の問題は將來大いに考ふべき重大なものを齎らさずには置かないやうに思はれる。

ヒンデンブルグ元帥の遺書

さて、そのナチス、それは現在如何なつて居るのか？

ドイツ大統領ヒンデンブルグ元帥は逝去した。そして、その遺書は八月十五日夜、ヒットラーが一般に公表した。

此の遺書は、四頁に亘つてタイプライターで印されたもので、日附は千九百三十四年五月十一日となつて居る。しかし、その内容は千九百十九年の頃から書き下されてある。

しかも、其の重點は、ヒンデンブルグ元帥亡き後は、ドイツ大統領の職を、ヒットラー氏に讓る旨が明言してあるのだ。

大體の要旨は、

余は最初ナチス主義に反對したが、漸次、その精神を諒解し、遂には、余はドイツ首相の職をヒットラー氏に與ふるの滿足を感じ、更にヒットラー首相は余の後繼者（大統領としての）たるべしとの結論に達した。尙余は舊ドイツ帝國は波瀾重疊の結果は、搖ぎなき永久不動の岩の如く、ドイツ政府の形式で再出現するものと信ずる、然しこれは決して復辟を意味するものでない、唯、余個人の意見としては結局は王政の復古を信ずる。

更に、帝制についてはヒンデンブルグ元帥が確然と遺書して、

永久に波瀾の絶ゆる事なき國民生活の海より、吾等の祖先が、曾つて希望を繼ぎ、殆んど半世紀に亙り彼等の信念の基礎を爲して居た岩石、卽ち帝制が再び頭を現はすであらう。

と云ひ切つて、老元帥が烈々！　帝制に對する思慕熱望を吐露して居る。それに加へて、後繼者たるヒットラーに對し

ヒットラー首相は總ての職業的並びに階級的差別を超越し、ドイツ國民を內的融合に導く爲め大なる一歩を進めた

と云ひ、ナチスに對しては、

國民的統一運動の背後には、協調的行動あることを希望する。

と、その猪突主義に一本釘をさした用意周到なものであつた。

其處で、故元帥の意を體し、ヒットラーが大統領を兼任踏襲することの、一般人民の賛否を問ふべく八月十九日、一般投票は開始されたのであつた。

ヒットラー總統就任

ヒットラーの意志は、ドイツ大統領と云ふ名稱はヒンデンブルグ元帥の尊稱として殘して置き自分は法令を改め單に「總統」として首相を兼ねると云ふのであつた。

しかし、その言葉、文字は如何あらうとも、事實上は嚴としてヒットラーが大統領となり首相を兼ねる事で、これこそナチスの徹底的、ヒットラーの獨裁政治の定成と云ふ譯である。

さて、其の人民投票であるが、八月十九日は日曜で、ドイツ國民は安息日として、朝寢をするのが常であるのに、ナチス政府獨特の宣傳が効を奏して、早朝から各投票場へは、陸續として詰めかけ、しかも蜿々長蛇の列を作る有樣であつた。

一方、日曜の事とて、各方面へ遊びに出掛ける人も多いので、ナチス政府は、それに備へて、停車場に投票所を設けさせた。ばかりではない、不在投票も許し、しかも當日は、飛行機が爆音高く空を馳け、ラヂオは勇壯な軍歌を唱ひつゞけ、全く國粹的な氣分に、すつかり浸らさせたのであつた。

その爲めに、遙かに他區へ行つて居るドイツ國民迄、わざ〳〵國境を越えて、ヒットラー贊成の投票にと來たものも多かつた。此の投票の統制振りは、實に鮮かなものであつた。

そして、ヒットラーが壓倒的勢ひで「總統」になるべき得票だとの噂が傳はると、群集は、首相官邸前に黑山のやうに集まつて、

「フユーラー！」

と喊聲を擧げた。此のフユーラーとは首長の意味で、卽ちヒットラー萬歲を叫ぶのに他ならないのである。

しかも群衆は益々數を增してウイルヘルム街は、全くヒットラーを歡呼する人波に埋まつてしまつた。此の群集は、夜に入つても去らうともせず、しかも俄かに豪雨と雷鳴が襲來した眞夜中も、翌二十日の朝も、たゞヒットラー萬歲と、ホルスト、ウエツセルの歌とで非常な賑ひであつた。

ヒットラーは此の眞夜中、窓を明けて、豪雨中の國粹黨員の閲兵をしたのである。蓋し、その得意や思ふべしである。

ヒットラー國首の宣言

開標の結果は、

有權者總數　四五、四七三、六三五人
投票總數　四三、二六七、八二一票
贊成　三八、三六二、七六〇票
反對　四、二九四、六五四票

であり、壓倒的な贊成を得て、ヒットラーは完全にドイツの最高權威者、即ち首相兼國首となつたのである。

これを昭和七年の獨逸大統領決戰投票と比較すると、當時の、

投票總數　三六、五八九千人
ヒンデンブルク元帥　一九、三六七千票
ヒットラー　一三、四一七千票

に見て、其後のナチスの絶對的な優勢が、實に判然として來る。

が、ヒットラーは此の反對投票に對して、決して其儘にはして置かなかつた。ナチスでは直ちに反對投票の分析を行つたのである。處が、そのうち半數はカトリック教地方、特にラインランドのもので、殘りはベルリン、ハンブルグ其他不況に直面して、ナチスの理想主義を白眼視する勞働者並びに、インテリの多い大都市に集中されてゐる事が判明した。依りて、之に對してナチス一流の强行手段を用ひられるとの說がある。

然し、ヒットラーは天下晴れて大統領の地位に上つた二十日夜「全ドイツ國民及びナチス黨員に告ぐ」と題して宣言書を發表した。それは擧國ナチス化の確信を披瀝したもので、

過去十五年にわたる權力への鬪爭は十九日を以て完了した。上は國家最高の地位並びに全行政機構から、下は僻村の管理に至るまで、全國は今や擧げてナチス黨の掌中に歸した。同志の測り知れぬ努力、枚擧にいとまない貴重な犧牲に對する當然の結果だ。今回の人民投票により國

民諸君が擧國一致の結果と一糸亂れぬナチス運動の眞隨を、遺憾なく全世界に明示されたことは余の感謝に堪へぬ處だ、今後更に此の結果を强化し、一層熱烈にナチス運動を續行し、ドイツ國民を一人も殘さずナチス黨に加入させ、黨の理想綱領を信奉させることこそ、ナチス黨に課せられた任務である、右目的遂行の具體的計畫は既に完成した。今後はナチス獨特の神速徹底振りを示して、右計畫を實行するばかりだ、國家權力への爭鬪は既に完了した。しかしながら、敬愛する國民諸君のための爭鬪は、今後も引續き遂行されるであらう、目指すゴールは依然として變らない。ドイツ國民の最後の一人までが、衷心からナチス並びにナチスの綱領を祖國の象徴として、遵守する日が必らず到來することを余は確信する。

との要旨である。更に、ザール地方民二千の祝辭に答へては、

ドイツが待望してゐる次の人民投票は、ザール領域歸屬決定の人民投票だ、ドイツ國民は、この人民投票で、諸君の苦痛を永久に除き得ることを確信してゐる、しかして余が初めてザール領域に足を踏み入れる日こそ余の生涯における最も幸福な日とならう。

と述べて居る。

ヒットラーとムッソリニの秘密會見

世界大戰の時には、一伍長であつたヒットラーが、今や完全にドイツ井和國陸海軍の總司令となつてしまつたのである。

そのヒットラーが去る六月十二、十三の兩日には、フアッショの親玉、イタリーのムッソリニ首相と會見した。その會見が、全く二人切りの密談であつたので、誰れも正確に、どんな話を仕合つたか知る者は無い。しかし、想像されて居る處は、

ムッソリニ「オーストリアの併合を思ひ止まつてくれ」

ヒットラー「當分、そんなことはない」

これが骨子だつたらうと噂されて居るのである。

一體、伊太利は、何故、ドイツがオーストリアを併合すると懸念して居るのであらうか？

これは、ヒットラーが其の著「わが闘爭」の中に「同一の血液は共同の一國家に屬する」と云つて居る處から、オーストリヤのナチスもドイツのナチスも結局同一の網領のもとに結合し、等しくヒットラーを最高指導者と仰いで居るのでもあるし、ナチスの「大ドイツ主義の實現」の爲めには、先づオーストリアをナチス化せしめねばならぬ、と云ふのが第一で、更に、ドイツが現在苦しんで居る對露對佛の貿易不振や、マークの高値、ナチス政府の自給自足主義的貿易政策から來る貿易の逆調で、今迄にない經濟的確信に直面してゐるので、この難局を打開する爲めにもオーストリアを合併してしまふことが必要であるからだ。

處が、オーストリアの方では、伊太利首相ムッソリニの乾兒とも云はれる首相ドルフス一派がオーストリアの獨立を死守して居た。ドルフスの討論は、

「オーストリアはオーストリア獨特の使命がある。東方諸國民の文化の先達たることだ、吾々は完全な自由と獨立とのうちで、この特殊的使命を果さんことを欲する」

と云つて居り、オーストリア護國團の領袖エミール・ファイは、

「吾々はオーストリア人のオーストリアを要求する、ナチス・ドイツに引摺り廻されることは毫も興味を感じない」

と叫んで居た。

だから、ナチスは、このドルフス首相一派の打倒を叫び、暴力行爲に移り、遂にオーストリアに叛亂を起させ、ドルフス首相はナチスの兇手に倒れてしまつたのである。

一年前の事であつた。ナチスの勢力が、オーストリアに這入り込んで內政狀態が危險になつたと見たイギリス、フランス、イタリーの三國は、一致してオーストリアの獨立を宣言した。

イタリーが、ドイツとオーストリアの合併を恐れるのは、この合併が出來上ると、ドイツとイタリーとは國境を接することになる。さうなると、歐洲大戰後にイタリーがオーストリアから讓り受けた地方には今尙ドイツ人が相當に住居して居ることだから、それこそ一大脅威である。イタリーにとつては容易ならぬ一大事、オーストリアはどうしても、緩衝地帶として殘して置く必要がある。だからこそ、ムッソリニ首相はヒットラーとの密談に第一にも第二にも此の問題を云

つたに違ひないとの想像であるのだ。

そして、ドイツも表面は終始一貫して、オーストリアに對して非干渉を標榜してゐる。だからこそ、オーストリア叛亂の後に、策動者と噂された在墺ドイツ公使館情報部長で國會議員のハビヒトや、駐墺公使リートに詰腹を切らせ、ナチス黨員でない處のパーペーを駐墺公使として、オーストリアの內政に干渉した事實もなく干渉すべき意志もないことを大いに辯明した。從つて、ムッソリニから、此の話が持ち出されたとして、ヒットラーは

「當分、そんなことはない」と事ふに極まつて居る——と噂されるのである。

然し乍ら、ナチスの大ドイツ主義は何處へ行く？　オーストリアの合併問題は果して如何？

となると、一方、オーストリアが急に復辟運動を起し、しかもハプスブルグ家の御曹子オットー大公が、新首相シュシュニックと相前後して、イタリーを訪問、ムッソリニ首相と意見を交換するばかりか、オットー大公とイタリー皇帝第四王女との結婚問題迄出て來たことに就いて、ナチスは果して、どんな考へを持つて居るだらうか？

世界の癌と云はれる中歐、しかも世界大戰後オーストリアの領土で成立し、または大を爲した處の小國協商ユーゴースラヴィアやチェツコスロヴァキア等の動きにも、今後やゝもすれば容易ならぬ雲行を見られるであらう。

ヒンデンブルグ元帥の經歷

其處で、先づ、今は亡きヒンデンブルグ元帥、それから新大統領ヒットラーのひとゝなりを述べねばならぬ。

ヒンデンブルグ元帥は「タンネンベルグの英雄」として世界大戰史上に赫々の盛名を殘した勇將である。それはロシア軍を壓滅したことに依りて、恰度日本海大海戰に於ける東鄕元帥のやうな偉大な功績を擧げたのである。

ヒンデンブルグ元帥は、小地方貴族の子として、一八四七年十二月二日ポーゼンに生れた。父は陸軍少佐、母は軍醫の娘であつた。

十一歳の時、即ち一八五九年の春に、シュレージェンのヴアールシュタットにある幼年學校に入つた。一八六三年には伯林の士官學校に進み、一八六六年には優等生として卒業、少尉に任官したのである。

ヒンデンブルグ元帥は勇將にも似ず、心持ちは優しかつた。元帥は休暇があると交通の不便なそして嚴寒でもスチームも通つてゐないやうな夜行列車に乘らねばならないのにも係らず、薄暗い明りの、冷たい待合室で、木綿の靴下を編み乍ら待つて居てくれる母親の許へと、胸躍らせて歸省したものだつた。全く若きヒンデンブルグは父母や兄弟に會へることが最上の幸福だつた。

一八六六年のプロシヤとオーストリアの戰役には、ケーンヒグレーツの戰に戰功を立て、一八七〇年の普佛戰爭には大隊副官として參加した。

累進して大將になつたのは一九〇五年。陸軍大學や參謀本部附や、隊附を經て後のことである。そして一九一一年には豫備役となつた。

歐洲大戰が勃發すると、ヒンデンブルグ大將は、

「戰爭の決定的目標は西部戰線に於ける優利である、この爲めには第一にロシヤ軍を壞滅しなければならぬ」

と主張した。この意見は、當時のドイツ參謀本部や一般と大いに異つて居た。

タンネンベルグの大勝

ヒンデンブルグが第八軍の總指揮官を命ぜられたのは、一九一四年八月二十二日であつた。そして、ルーデンドルフが軍の總參謀長となつた。

この第八軍は、東の方から、ケーニヒスベルクを目指して進んで來る、例の日露大戰にも敵手ら天晴勇猛を以て鳴り、我が陸軍を惱ましたレネンカンプフ軍と、更に、南の方から攻め上つて來るサムゾノフ軍とに對戰しなければならない運命にあつた。

その時、ヒンデンブルグは、

「必らず露軍を壓滅しなければならぬ」

と、堅く決心した。大體總參謀長のルーデンドルフもヒンデンブルグ元帥と同じく、シュリーフェン派と呼ばれる擧滅戰術の信奉者であつた。

ヒンデンブルグ元帥は先づタンネンベルグ地方の沿線地へサムゾノフ軍を誘ひ寄せて、包圍して擧滅しやうとの作戰に出でた。

で、素より敵より劣勢であつたが、レネンカンプフ軍に對しては、少しばかり兵力を分け、之を散布して、一つの煙幕とし、レネンカンプフ軍が、前方の敵に對して用心深く、猪突的に出でないのを好期として、八月二十四日から三十日迄の間に、土地不案内で、すつかり迷つた沿線地のサムゾノフ軍を、すつかり包み込んで猛烈に八方から襲擊した。

此の作戰は見事に圖に當つた。周章狼狽した處のサムゾノフ軍は完全に、ノックアフトされてしまつて、死傷七萬、捕虜十萬と云ふ素晴しい敗戰をしてしまひ、サムゾノフは自らピストル自殺を遂げるに到つた。

ヒンデンブルグ元帥は昂然としてタンネンベルクの戰法を語つて云ふのは、

「先づ、サムゾノフの密集軍に對して、薄い中央部を以つて當る、薄いと云つても弱いのではない。吾軍の兵士は鋼鐵の心と意志を有して居る。背後には彼等の故郷、妻、子供、兩親、兄弟財産等銃後の守りがある。こゝに當つたのは勇敢な西及び東プロシアの兵士である、かくて薄い中央部がロシアの密集部隊の壓力で曲るかも知れぬが、それが破れなければいゝのだ。そして、此の中央部隊が戰つてゐる間に、二つの左右の有力な部隊が、決定的攻擊を開始して戰を決するのだ。單に勝つと云ふだけではなく、擧滅を以つて、吾々はサムゾノフに當らなければならぬ、何故かと云ふに、吾軍は、直ちに第二の敵即ちレンネンカンプフに對して無拘束の行動に移らねばならなかつたから」と。

このレンネンカンプ軍も退却の際マツーリアン沼澤地方に誘つて湖水に追ひつけ大溺死させて了つた。このタンネンベルグの勝利こそは世界大戰中の最大の勝利の一であつて、これで、ヒンデンブルグ元帥の名聲は世界的に確定してしまつた。

この時のヒンデンブルグと總參謀長のルーデンドルフとは、日本海々戰に於ける東郷元帥と加

藤友三郎參謀長のやうなものであつた。それに就いて、ヒンデンブルグ元帥は

「自分とルーデンドルフとの關係は、仲の良い夫婦みたいなものである。實際うまく行つた結婚だつた！」

と感懷を述べて居る。

そして、ヒンデンブルグ元帥はドイツ最初の大統領エーベルト（社會民主黨出身）が一九二五年二月二十八日盲腸炎を起し手術の結果死ぬと、迎へられて大統領となつたのである。そして昭和七年に重任、かくて今夏八月二日午前九時、薨去したのであつた。その國葬は記念すべき戰勝の地「タンネンベルグ」で擧行され、ドイツ國會に於けるヒットラーの痛烈なる惜別の辭、悲痛なる哀悼の言葉は、遠くラヂオを通じて、日本の吾々の耳に迄達したのであつた。

ナチスの焚書とナチス藝術

ヒットラーを最高指導者とするナチスの第一條は、先づ猶太人排斥であつた。これに就て、ヒットラーは其の自著「我が戰ひ」の中に、

「猶太人は歐羅巴の國民を秘かに害して、これを男でも女でもない私生兒に變へてしまへる事をよく承知してゐる。又、日本人と云ふアジア國家に同じ運命を課する事の困難なる事もよく承知してゐる。これ猶太人が、この覇權を握らんとする前に、まづ日本を破壞せんとする野望である。即ち今日猶太人は、すべての國家を、日本反對の地位に就かせんと試みて居る。之、恰も往年獨逸に對して試みたと同じ手段ではないか」

と、我國に對しても說き及んで居る。ヒットラーを始め、ナチスの猶太人を排擊するのは極まつて居る。

ナチスは既に過去に猶太人藝術家を排斥した。そして昨年五月には獨逸大學生が、

「一切の非獨逸的な圖書の存在を許さず」

として、所謂ナチスの焚書を敢行したのであつた。しかし、これを秦の始皇帝の焚書のやうに大げさに騷ぎ立てた一派があつた。が、それは、ほんの純心な大學生の惡戲であつたのみで、ド

イッ人の眞精神は、そんな無茶なものではないのである。

ドイツの宣傳大臣キョッペルスが或る藝術家に對して、この公開狀の返事に、

「貴下が藝術家として立ち、又一切を單に藝術家としての立脚點から考へらるゝ事は、これは貴下の自由なる權利である。けれども、それは今ドイツに根を据えた、この一切の發展に對して貴下が政治的に無關心にゐられる事を前提とするものではない。政治も一の藝術である。恐らくは何よりも最高にして、あらゆるものを包括する藝術である。新らしいドイツの政治を形造る吾人は、こゝに亦藝術家たる事を自覺するのである。これは大衆と云ふ素材から、國民と云ふしつかりした一つの形を成した創作物を作り出すべき、最も責任ある任務を負はされてゐる。藝術及藝術家の任務は、單にこの兩者が相結び付いてゐる丈けのものではない。更に進んで、ある物を形造り、ある形を與へ、病的なものを排除し、健康なるものに、自由の途を與へるを任務とする故に余はドイツの一政治家として、貴下が認めんとする尊敬すべき藝術を、尊敬すべからざる藝術との間の分岐線のみを單に認めんとする事は出來ない。藝術は好い藝術でなければならぬのみならず、同時に國民のものとして條件を備へてゐなければならぬ。或は完全に國民性自身から生れた藝術のみが、窮極に於て好い藝術であり、又、その國民の爲めに作られて、國民に何等かの意義を齎すものが、好い藝術であると云つた方がよいかも知れない。

絶對的意義に於ける藝術、並びに之を認むる自由主義的デモクラシイは存在を許すべきでない。

斯くの如き藝術に資せんとする試みは、窮極に於て國民をして藝術に對する內心的奇興を失はしめ、藝術家は、自ら時代の生長する力から離れて、藝術の爲めの藝術を立脚點とする。空虛なる空間に孤立し、閉ぢ籠められるに至るのである。藝術は好いものでなければならぬ。けれどもそれ以上に、責任を自覺し、國民に接近し、且つ鬪士的でなければならぬ」

と云ひ、更に、今日のドイツに如何に下等なる藝術家が横行し、しかも、それにドイツ人も參加してゐると云ふ事に關して、

「それ等は、いかにドイツ國民生活の根底に、之等の危險の根が深くはびこつて居る證據に外

ならない。一面に、之等に戰線を張る事が、いかに緊急であるかを示すものである。眞の藝術家は世にある事稀である。吾人は宜しく之を促し助けねばならぬ。然し、それは眞の藝術家にのみ限られた事である。

貴下は獨逸に於て將來とも藝術に關し、常に御意見を述べられる事は出來やう。最近惹起された事件は（例の排斥）吾人からも容認出來難い事ではあるが、これは今迄の事實に對する自然の反動を現はしたものと考へられる。

何れに致せ、余の考へる處は、ドイツに於ては、すべての眞の藝術家の仕事に對しては何等妨ぐることなく、その活動の領域を自由に提供せんとするにある、けれども既に貴下の云はるゝ如く、その藝術家とは、創造的に築き上ぐる人でなければならぬ」

と、根底のない、平凡な、技巧ばかりの藝術家は問題でないと、明らかに宣傳大臣は斷言してゐるのである。

ナチスの求むる藝術は、ドイツ精神のものでなければならないのである。第一にも第二にも愛國劇でなければならず、愛國小說でなければならない。

だからして、先づナチス藝術として推さるべきはワアグネルであらう。シルレルも參考になる程度であると識者は云ふ。そして、近來現はれる處のナチス劇の殆んどが、目標を國民的團結に置いて居ることは面白い。

獨逸に於ける猶太人排斥は、猶太人が、猶太人マルクスの信奉者であると云ふ點に、最も多くの厭惡が拂はれて居るのである。

ヒットラーとは何者ぞ？

さて、アドルフ・ヒットラーとは如何なる經歷の人物であるか？

ヒットラーも伊太利のムッソリニ首相と同じく貧家の子弟であつた。ムッソリニが、酒呑鍛冶屋の息子であつたやうに、ヒットラーは、水呑百姓が苦心の末漸く稅關吏となり、しかも其の小官吏の身分も僅かにして退き、農業に從事して居た人の獨り息子として生れたのであつた。

ヒットラーの父は、どうかして獨り息子を官吏にしたいと思つて其の教養に勉めた。ヒットラーが十三の時、遂に此の父はヒットラーの宜吏姿を見ずして死し、殘つた純ドイツ人の母は、女の手一つで、彼と彼の妹の教育に一心になつた。しかも、ヒットラーが十八歳の時、過勞から肺患となつて死んでしまつた。今やヒットラーは兩親共に死別し、いよ〳〵自らパンを得なければならなかつた。

ヒットラーは、青雲の志を抱いて、二三の着物の入つた行李を唯一の財產として、ウィーンに來て、美術學校の入學試驗に應じたが、不幸落第した。それから、彼は大工の徒弟になり、後にペンキ屋になつた。當時の生活をヒットラー自身は、

「私が最初に見習大工として、それからは一介の繪書きとして、自らパンを求めねばならなかつた此の五年間は、悲慘と苦痛そのものであつた。かうした苦勞によつて得たパンとても飢を凌ぐにも足りなかつた。此の飢こそは當時、私の傍を離れないで、あらゆる勞苦を分けた唯一の伴侶者であつた。私の買ひ求めた書物は悉く、此の激しい飢を忍んで獲たものである。

一度オペラ見物に行けば、其の後に飢餓が終日私に附き纏つた。私の生活は此の殘酷な友との不斷の闘爭以外の何物でもなかつた。にも拘らず、私は、此の時代に、嘗つてなかつた程の勉强をした。仕事の餘暇に、極く稀れに食物を節して、オペラを見に行く外には、私の唯一の友人は多くの書物であつた」

と述懷して居る。

當時ドイツの勞働者は皆マルクス主義者と云つていゝ位であつた。

が、ヒットラーは作業場でマルクス主義者と交り、その話を聞き、非常な熱心さで研究したが遂にマルクス主義は同時に猶太問題を併せて研究せねば駄目だと悟つた。

そして此の二つの研究の結果は、ヒットラーに、

「社會主義は亡國主義である！」

と云ふ確信を獲させた。すると熱情、直情、徑行のヒットラーである。事毎に、アンチマルキシズムを現はし、振りまわすので、社會主義の勞働者と、大衝突をして、屋根から突き落された

事もあつた。

ヒットラーは當時云つた。

「マルクス主義の遵奉は、眞に文明の終熄である」

又「獨逸の勞働者は、眞に心から、マルクス主義に心醉して居るのではない、其の指導者や戴吹者が惡いので、勞働者は決して國粹主義に反對するものでないことが判明した」

と。

當時、ヒットラーが崇拜したのは汎獨逸主義の首相リッテル、フォン、シューネルと、ウキンナの市長で、基督社會黨の首領ルイゲルであつて、其の所說は常にヒットラーを啓發した。

そして、ヒットラーは純獨逸文化に歸りたい爲めに、ミュンヘン市に歸住した。其處でヒットラーは建築教師とならうとしたが、とりあへず、ポスター描きを渡世として、自己の主義主張を將來如何に伸すかに腐心した。

ヒットラーが飢餓の中にオペラ見物に出掛けた心持ちは、

「芝居や映畫は時代の反映であり思想の表現である。だから見逃してはならない」

と云ふのであつた。だからして、切りつめた生活の中にも、研究的態度で、それ等の興行ものを見に廻つたのである。

ヒットラーの戰動

大體、ヒットラーの國籍は墺太利なのである。だからヒットラーは千九百十四年二月に墺太利に對する兵役義務は濟まして居た。

しかし、歐洲大戰が勃發すると、ヒットラーは純獨逸人である理由で、斷然獨逸軍に從軍しやうと快心した。そして、ババリヤ政府に志願兵たらん事を願ひ出て許され、ババリヤ豫備步兵第十六聯隊に入隊し、同年十月十日には、戰線に出たのであつた。

ヒットラーが參加した戰鬪は、大戰中トイツが最も惡戰苦鬪して、しかも目的を達する事が出來なかつたカレー奪取の目的で白耳義の西方北海岸に面するフランデルの戰であつた。

此の戰鬪で、ヒットラーは獅子奮迅の大活動をした。そして戰友が、ばた〳〵と倒れて行く中に、漸く九死に一生を得、兵卒として偉動を樹てた。

次が、ババリヤの森、ウキトシエテの攻擊で、ヒットラーは此の時にも到る處で殊動を現はし出征僅かに二ケ月で鐵十字二等勳章を授けられた。

ヒットラーの戰場に於ける有樣は、誠に人情深いものであつた。ヒットラーには家庭がない、だから危險な任務は、つとめて家庭のある人の分を代つて勤めた。それは全く政治上、宗教上、意見を異にする人であつても、ヒットラーは公平であつた。上官にも同僚にも、いつも單身獨性的の立場に出でゝ戰友からは此の上もない親しみと懷しさと、信賴とを寄せられて居た。

千九百十六年、西部戰線に於て、フランス軍が大攻擊をした時に、ヒットラーは、砲彈の破片で、腰部に負傷した。そして一旦入院したが、翌年三月には再び戰場へ現はれ、奮鬪して、フオンテ戰の後には勳章と感狀とを授與され、千九百十八年夏の總攻擊には、ヒットラーは、單身で敵の將校以下十五名を捕虜とした。

此の偉大な勳功で、鐵十字一等勳章はヒットラーの胸に飾られる事になつたのである。

失明したヒットラー

だが、ヒットラーは、聯合軍最後の大攻擊の際に、ウキツベル南方で、英軍から放射した、グルベ、プロイツ瓦斯（黃色毒瓦斯）の爲めに、中毒し、全身に痛痒を感じたが、この爲めに一時失明してしまつた。

で、陸軍病院で眼の治療をした。此の入院中、ヒットラーの身邊は淋しかつた。肉親の看護もなく、しかも祖國ドイツの噂と云へば、悉く惡評ばかり、切齒したヒットラーは病床に神に祈つたのであつた。

「神よ！　ヒットラーの眼を開き賜へ、ヒットラーは祖國ドイツの爲めに立たねばならぬ」

と。

帝政の沒落とヒットラー

キールで水兵の革命があつたのが千八百十八年十一月九日、猶太系に乘ぜられて、ドイツ全國は瓦解して行つた。

帝政の沒落と共和國の成立を聞いたヒットラーは、當時、眼が次第に見え出して來て居たのだが、此の報道を知ると、齒を喰ひしばり、鐵拳を振つて、慷慨悲憤やる方なく

「私は母が死んで、其の棺を送つて以來、泣いたことはなかつた。青年時代に運命が苛酷であつた時に、私は却つてそれに對して頑强になつた。永い戰爭の間に、私の戰友が相次いで襲れるのを目擊しては、自分の苦痛を訴へたりすることは罪惡だと思つた。彼等はドイツの爲めに死んだのではないか！　更に、此の最も激しい鬪爭を行ふべき時に、毒ガスの爲めに、眼を犯されて最早永久に見えなくなるのではあるまいかとの懸念に戰慄いてゐた時でさへ、良心の叫びは私の耳朶を打つた。情けない者よ！　大衆が汝よりも數百倍も不幸になりつゝあるのに、汝は女々しく泣くのかと。かうして、私は秘かに私自身の苛酷な運命を耐へ忍んで來たのであつた。だが、今と云ふ今は、どうして泣かないでゐられやうか？　私は初めて、此の祖國の最大の悲運に際會して、今こそ一切の個人的苦惱の如きは何でもないことを知つたのだ。

かくて一切は無駄に終つた。あらゆる犧牲も窮乏も、死の懸念に圍まれつゝ忍んだ飢渴も、二百萬人の死も、總ては無駄になつたのだ！。

ドイツの母達が痛む心を以て、其の最愛の子等と再び相見る希望もなく、戰地に送つたことによる祖國人の犧牲の意味が、これだつたのか？　これこそ一團の破廉恥な裏切者の仕業ではないか？」

と、

ドイツがマルキシストの手に落ちたことは彼に取つて耐へ難い汚辱であつた。

ヒットラーは天を仰いで泣いた。その泣きに泣いた涙の底から、ヒットラーは、

「よし！　どうしても立ち上る、祖國の爲めに！　ドイツ民族の爲めに！」

と高く〳〵叫んだのであつた。

ヒットラー將校になる

兩眼失明を脱れたヒットラーは、退院すると、一九一八年十一月、再び聯隊に復歸した、が、當時社會黨員で兵卒委員會が組織されて居るので頗る不滿を感じて、役員と共に聯隊が解散される迄、トラウシュタインニ轉地したが、やがて、ミュンヘン市に歸つた。

さて、ヒットラーが、ミュンヘン市に歸ると、レーテ政府（共産黨政府）は、ヒットラーを革命反對運動者と認めて、捕縛しやうとしたのであつた。

その時、ヒットラーは捕縛に向つた兵士に大喝した。

「俺を捕へる？　捕へるより前に、先づ貴樣を一擊の下に仆すぞつ！」

そして、武器をかざした。

兵士は此の勢に懼れをなして逃げたのであつた。

千九百十九年五月一日、レーデ革命が終つて、暴徒百數十名は殺害され、普魯西軍はミュンヘンに殺倒して、革命の巨頭は、悉く國外へ逃走した。

殘つたのは純ドイツ人である。

軍法會議は、革命者に對して、死刑を宣告した。そして、ヒットラーは、反革命者であると公認されて、歩兵第二聯隊の代表者として、軍法會議の立會人を命ぜられた。

それから、獨逸軍隊の幹部は、政治智識に缺乏して居ると云ふので、政治講習會が開かれた。

此の時、ヒットラーは、官民から選まれ、てミュンヘン聯隊の政治講習會の教育係將校に任命された。

その當時である、後にヒットラーの爲めに、ナチスのプログラムを作成したゴットフエデル氏と面接して、ゴットフエデル氏の「利子の壓迫」と云ふ演說を聞いて、深く感動したのは——。

勞働黨參加は足場

ヒットラーは又、當時の政府の命で、勞働黨の實況調査をした。

その委員會が、ミュンヘンの元のシテルン・ネケル・ブロイの麥酒屋で開かれ、其の最終日に一人の獨立黨員が、

「ババリヤをプロシヤより獨立せしめよ」

と演說した。

すると、ヒットラーは、すつくと立ち上つて、

「以ての外の事だ！」

と、大反對演說をした。その熱辯は聽衆を魅して、大いに共鳴されたが、その結果、ヒットラーは、勞働黨へ加入を强請せられた。

その時、ヒットラーは考へた。

「將來國家社會黨を樹立する爲めには、一と先づ勞働黨へ入つて、それを足場にしやう」

と。

勞働黨へ入つてからのヒットラーは、それ迄同黨を牛耳つて居た、アントン・ドレクスラーと云ふ錠前屋の親爺を說き伏せて、自ら黨主になつてしまつた。

そして、時こそ來れと待つた居たが、もういゝだらうと、千九百二十年二月二十四日にミュンヘンで、百人の來集者を前にして、ナチス國家社會黨を創立したのであつた。

此の席上で初めて二十五ヶ條の黨綱領を發表した。

ヒットラーの時世觀

此の二十五ヶ條の綱領を揭げる前に、先づヒットラーが、蹶起した時世に對する觀察を述べる必要がある。

ヒットラーは、先づ第一に、

◇理想が金力に依つて左右され、日々低下する。

◇工業の發達は勞働者不用、賃銀低落、失業者續出、生活困難に陷づたにも拘らず、何等具體的

の處置の施されなかつたこと。

◇農民が都市に集まつて、工業が文化事業に轉じた爲めに、勞力の不足を來し、其結果農產物の生產力が激減して農業の基礎が危くなつたこと。

◇獨立した個人資力に代ふるに、共同出資特に株式會社が簇出して、都市に於ては百貨店が殖え之が爲め、小賣商人は販路を失ひ、光輝ある老舗も續々店を仕舞ふたこと。

◇西方諸國から侵入して來た民主々義は、個人の人格を無視して、萬事議會主義となり、何等實力を伴はない數字即ち投票に依り、易々として重大案件が決し去られ、無理が通つて道理が引つ込み、特に議決機關に列する者共は、其の人格を問はずして、自己推薦や、運動に依つて大衆の力を藉り議員となつて議席に連らなり、議事錄を判讀することさへ不可能な者共が、金の力で議席を護得して重要案件を決する、候補者に立つものも立たせるものも唯金力で無節操國家に對する奉仕心のない事呆れたものであること。

◇マルクス主義の侵入は、國民を貧富の兩階級に二分し、日々隔絕せしめ、幾百萬の貧者が出來

これ等の人々は全然自己主義で、ドイツ國家を忘れ、ドイツ精神の粹である雄大など云ふ事は何處へ行つても見當らぬこと。

◇他方に於て、富者は自尊主義を持ち、勞働者等の希望は更に傾聽せず、親子兄弱親友の間柄でも、金錢や世話事に關しては、斷然拒絕して毫も顧みない、何の爲めの宗教であるが、何の爲めの學問であつたかを疑ふこと。

「以上の如き非國民主義者は、ドイツ人の血統を有つて居るだらうか、いやドイツ魂を自ら廻避辭退したもので、ドイツの基礎を危くするものである。從つて、此の儘に捨て置いてはドイツは崩壞する。これこそ歷史の終熄、歷史の汚辱であるから、敢然立つて救はねばならぬ」

これがヒットラーの血肉に食ひ入つた信念であつた。

ナチス二十五ケ條綱領

さ、て問問のナチス二十五ケ條の第一は

一、我々は各民族自決權を基礎として、一切のドイツ人が大ドイツの下に團結することを要求する。

二、外國と機會均等權を要求する。

つまり、ヴエルサイユ平和條約と、サンゼルマン平和條約を撤廢すると云ふのであつて、これは伊太利首相ムツソリニは唯一の支持者である。

三、領土と殖民地とを要求する。

四、法律上の人民と稱するものは、唯一人種のみであることを要する。

つまり宗教上の洗禮では駄目である、だから猶太人はドイツ人種の一人たることを得ないのである。

五、ドイツ國民たるを得ない者は賓客としての待遇をなし、單にドイツに於ては、生活する事が許されるだけで、是等外人の爲めに、特定せられた法律の下に生活しなければならぬ。

六、立法並びに指導の地位に立つ者は、純粹のドイツ國民にのみ許容される。

七、政府は、第一に國民の利益收得を保證し、生活安定を期する義務があることを、政府に要求し、萬一にもドイツ全國民の生活の安全を期することの出來ぬ場合には、純ドイツ人に非ざる者は國外に追放する。

八、ドイツ人にあらざる者（猶太人）の移入住を禁止する。

九、あらゆる國民は、平等なる權利義務を保有すべし。

十、各國民の第一の義務は心身を健全ならしむるにあり、個人の活動は全體の範圍内に於て、專ら萬人の利益を計るを目的とし、決して全體の利益に衝突すべからず、それ故に、次の條項を要求する。

十一、不勞所得の廢止。

利子奴隷制の打破。

十二、一切の戰爭に基く財産と生命との莫大なる犧牲に對比すれば、戰爭による個人的致富は國民に對する罪惡と見做す、だから一切の戰時利得は完全に沒收する事を要求する。

十三、我々の（從來の）一切の既に社會化されたる企業（トラスト）の國營を要求する。

十四、我々は大企業に於ける利益參加を要求する。

十五、我々は大規模の養老制度の確立を要求する。

十六、我々は健全な中產階級の創設と其の維持、百貨店の即時共有化、及び小營業者に對する低廉な貸與を要求する。

十七、ドイツ國民の不動產の保護に關する適當なる法律の發布を要求する。

十八、公益を害する事は彈壓する。國家に對する犯罪者、高利貸、不正欺瞞利得者は、其の人種宗教を問はず、極刑に處す。

十九、ローマ法は唯物主義だから、純ドイツ法に變更する。

二十、ドイツ國民教育を改善し、ドイツ人として熱意あることを要求する。そして、有能者は本人の身分を問はず、拔擢登用の途を開く。

二十一、國民衞生に注意して、母と幼兒とを充分に保護し、官費で教育する。

幼年者勞働を禁止する。

體操、スポーツは國民の義務として、幼年教育の運動會には補助金を出す法律を作成する。

二十二、ドイツ國民徵兵令を發布して、傭兵廢止を斷行する。

二十三、我々は故意の政治的僞瞞と、新聞紙による流布に對する鬪爭を要求する。そして共同利益に反するものは禁止する。藝術も文學も新聞も皆、共同利益に反するものは禁止彈壓を徹底的にする。

そして、新聞雜誌の編輯者や經營者はドイツ人たる事を要し、總てドイツ語でなければならぬ。

二十四、信教の自由を要求する。

たゞし、國家の存在を害せず、ドイツ人種の道德に反せざるものでなければならぬ。

二十五、以上の諸原則遂行の爲めには、我々は國家の强力なる中央權力の確立、國家全體に對する政治的中央議會の無條件の權威と、其の一般的組織を要求する。

そして、身分階級會議、職業階級會議の創設を要求する。

最後に、

黨指導者は、以上の條項實施貫徹の爲め必要あらば、生命を捧げることを辭せず。

と云ふ、峻嚴なものである。

ギヤの急轉光線の形の紋章

既にして、ヒンデンブルグ元帥も、此のナチスの綱領には絶讃したのであつた。

一九三三年五月一日、ヒンデンブルグ大統領は、ベルリンで、百萬の青年を前にして、

「服從を體得したる人々は、何れの日にか命令する事が出來るのだ！」

と、歴史的な獅子吼をしたのであつた。

ナチスの紋章は、例の卍である。そも〳〵此の卍は何をシンボルしたものであるか？

それは、潑溂たる事をシンボルして、發火器のギヤが急轉した場合に生ずる光線の形を採つた

ものである。

さて、此のナチスの總ての裏に隱されて居るのは何か？ 何が、ヒットラーを、かくまでに偉大にしたか？ 曰く、それは、一にも對佛復讐戰、二にも對佛復讐戰である。

此處に於て、フランスの恐獨病は一層に募つた。

ヒットラーとフランス

フランスは世界大戰には勝つた。が、勝つた直後から、ドイツの復讐に怯えた。それがヒンデンブルグ元帥が大統領となると、恐獨病を發し、更にヒットラーが首相となるに及んで、正に重態となりつゝある。

見よ！ 目下のフランスを。フランスは大戰後、犬と猿との間柄だつたロシアと、そつと手を握らうとして居るではないか。

滿洲事變勃發以後、國際聯盟に於けるフランスの狀態はどうであつたか？ 我國はフランスの

恐獨病の爲めに、とんでもない、とばつちりを食つたものだ。

と云ふのは、大體フランス人は感情的に日本が好きである。しかも、常々、歐洲大戰では、日本には厄介になつて居るが、支那には何にも感謝しなければならぬと云ふことはないと信じて居るし、傲岸不遜な米國に對して、常に日本が小氣味よく、シッペ返しを食はして居るのに喝采して居た。

そればかりではない、フランスは佛領インド支那と云ふ寶物を東洋に持つて居るのである。だからして、感情的にも利害關係に於ても當然、フランスは日本の立場を贊せねばならぬ筈である。

然るに、何故、國際聯盟の會議に於て、あんな態度に出たのであるか！

それは、突如としてナチスの擡頭である。ヒットラーの政權獲得だつた。

フランスは恐獨病の立場から、無理やりに、日本に對する、あんな態度に出で、暗にナチスのドイツに對して、

「現狀を打破するものは、世界の公敵となるが、いゝか、よく知つて置け」

と示したかつたのである。

この位のフランスである。する事爲す事、皆恐獨病の結果であつて、英米佛の同盟提唱も、國際聯盟の擁護も、小協商國の建設やポーランドの擁立も、ロカルノ協定も、不戰條約も、詮じ詰めれば、恐獨病の應急手當に過ぎないのである。

しかも一方、ポーランドは最近、ドイツと不可侵條約を結んで、フランスの恐獨病を一層嵩じさせた。

又、更に、ヴエニスで、ヒットラーはムッソリニと密談をした。

成る程、伊太利と獨逸とは、オーストリアを、獨逸が合併する事にこそ、利害は相反し、それこそ兩國の重大問題である。しかし、此の問題さえなかつたならば、露佛に對立的な、獨伊が近付くのは明々白々の事實だ。さうなると、最も恐れを爲すのが矢張、フランスである。

此處に到つて、溺れるものは藁をも摑むのである。

フランスはロシアに色眼を使つたのである。ロシアの恐日病、それにフランスの恐獨病、誠に同病相憐れむの感情からだらう、最近、フランスとロシアとは攻守同盟をも締結しかねない仲となつたやうに傳へられる。

外國の漫畫子は云ふ。

フランスが武器を嫁入り道具にして、

「あたし、これだけ持つてるから大丈夫でせう」

と、ロシアの婿に媚笑すると、ロシアの婿は、

「いゝとも、わしの武勇で、その力を發揮して見せる！」

と、力む。

一種、何かを諷して居るではないか。

しかも、ヒットラーは堂々と國首として乘り出したのだ。

フランスなるもの、寢心知の惡いこと幾何であらう！

ナチス清黨强行

が、此のナチスの内にも、不平分子があつた。それは右翼の國防軍、ゲーリング氏の卒ゐる國家警察隊、鐵兜團に對する、ナチスの極端分子突擊隊幹部の不滿であつた。

突擊隊領袖の一分派は、この不滿不平から、第二の革命を起して、ドイツ國を崩壞しやうとの陰謀を企んだ。

處が、疾風迅速のヒットラーである。

去る六月三十日、ナチス參謀本部長レーム氏を免職し、同時にナチスから除外する旨の宣言書を發表すると、間髪を容れず、先手を打つて、ドイツ國家警察隊をして、ベルリンのナチス突擊隊本部並びに、ナチス黨參謀本部長レーム氏の本部を占領させ、續いてレーム氏の私邸も占領させた。

そして、元首相フォン・シュライヘル將軍は逮捕に向つた警察隊に抵抗した爲めに射殺され、

同夫人も重傷し、ヒットラーはレーム氏等七人の舊友を銃殺してしまつたのである。

この、ヒットラーの强行手段に對して、まだ生きて居たヒンデンブルグ大統領は、

「余は齎らされた諸種の報道によつて、强力なる手段により貴下が勇敢にも身を挺して總ての謀反的陰謀の芽を摘み取られたことを知つた、貴下はドイツ國民を重大な危險から救はれた余は貴下に衷心からの感謝と賞讃を表明する」

と、其の清黨行爲に祝電を送つた。

清黨運動の爲めの斷乎たる處置の結果は、どうなつたか？

それは、第一に、ヒットラー首相の個人的地位を强化し、第二にヒットラー政權の基礎を一層右傾にし、第三に、ヒットラー政權の內部に於ける最大の暗礁、卽ち突擊隊員中の極端分子を除去し、第四に、ナチス黨內に於ける左翼分子の努力が認められ、その上分割され、第五に、突擊隊の齒を拔いて、ヒットラーの近衞兵たらしめ、第六に突擊隊の極端分子である一部領袖を除いて、他の領袖に、國家主義者及び右翼派と妥協させたものであつて、益々ヒットラーの獨裁强化

を確實にしたものであつた。

この擧あつて以來、ヒットラーの手許へは全國の突擊隊各地支部の首腦部が、ヒットラーに忠誠を誓ふ電報が、引つきりなしに來たのであつた。

駐獨永井大使から外務省に達した此の時の公電を轉載する。

一、國民社會黨は卅日付を以てミュンヘンに於て要旨左の通り發表した。

數ケ月來一派の者により黨と突擊隊、黨と國家との間を離間せんとする陰謀が企圖されて居たところ、突擊隊の幕僚總長レーム氏は、これを助長し、シュライヘル將軍と密かに關係を結び、レーム氏は之が仲介者として他の一有力突擊隊指揮者を用ひたるのみならず、ヒットラー首相の最も排斥し居るベルリン著名の如何はしき一人物をも引入れた。しかして右に關する交渉は遂にある一外國乃至は、その代表者にも及べるを以て、黨のためにも、また國家のためにも、これに對する緊急策をとらざるを得なかつた。かゝる計畫的に仕組まれたる出來事の結果ヒットラー首相は三十日午前二時ボンより飛行機にてミュンヘンに來り罪狀重き指導者連の逮

捕を命じ、また自らワイスゼーに赴き殺逆を未然に抑壓したるが、一方同志はゲーリング氏に對し、ベルリンに於けると同樣の措置、殊に本件政治的陰謀に關する反動的連累者の撲滅を命じた。

二、なほ、ヒットラー首相はレーム氏の後任としてルッツェ氏を突擊隊幕僚總長に任命すると共に、その命に從はざる突擊隊々員は、突擊隊及び黨より除籍し、または逮捕處罰すべき旨を布告した。

三、前記の發表中に言及され居る「外國」に就いて、或者は露國を指すものと解し、他の者はフランスを指すものと解して居るが、その孰れなりやは現在のところ判明しない。

ザールの人民に叫ぶ

此の清黨强行以後のナチスの陣營は、どうなつたか、この强行あつて後、ヒットラーは、ヒンデンブルグ元帥の薨去から、國首衆首相となつてしまつた。

で、八月二十六日夜、ラインランドの勝地古城を以て有名なエーレンブライトシュタインに赴いて、ザール領域歸屬決定の人民投票に必勝する爲め、ラヂオを通じて「ザールの人民よ！ 諸君の祖國に歸れ！」と熱辯を振つた。その要旨は、

全世界が擧つてナチス、ドイツを攻擊してゐるとすれば、それはナチス運動が祖國の利益を死守してゐるからに他ならぬ、國際的軍閥、財閥は何とかして、ドイツに打擊を與へようと望んでゐるが、余はこれ等うるさい徒輩に對し、毅然として、

——我々は何ものにも屈せず——

と宣言しよう、如何なる場合にも、我々は斷じて降服しない、我々の苦難が大きければ大きい程我々の力は增して行く、ドイツ國民は過去に於て、幾多の苦難を克服した通り、今後幾千年間榮えて行くだらう。

ナチスに敵意を抱くザール人は光榮ある「ドイツ國民」と呼ばれる資格がない、彼等はキリストを賣つたユダだ。ユダの背信行爲にも拘はらずキリスト敎が地上に榮えて居る通り、ザール

領域に於ける反對策動にも拘はらずナチス運動は益々擴大するだらう、ザール人民諸君！　諸君が、いよ〳〵祖國に歸る時期が到來すれば、我々は心から諸君を歡迎するだらう、ドイツ政府は所屬政黨の如何を問はず一切のザール人を抱擁して全州民の協調融和を圖るであらう、更にザール領域の經濟的基礎を改善して、本國との經濟的接近を圖るのが、ドイツ政府の方針である。ザール領域の歸屬問題は、現在獨佛兩國間に横はる唯一の懸案であるが、この問題さへ解決されゝば獨佛兩國間にも、やがて眞の平和が確立されることゝならう。

と云ふのである。

ナチス陣營强化成る

さて、ザールの人民に呼びかけたヒットラーは、今度は清黨以來の陣營の强化工作に乘り出した。

先づ、プロシヤ兼聯邦航空相のゲーリング將軍と、國防相ブロンベルグ將軍と、ナチスの副黨首ルドルフ・ヘス氏を「ナチス三羽烏」に任命した。

これは、國政を、政治と軍事と、黨務の三つに大別し、政治に關する一切の處理はゲーリング航空相が、副總理に任命されると同時にやり、軍事全般は、ブロンベルグ國防相が、全部の指揮をとると共に、宣戰や講和に關する最後の決定權を與へられ、そしてルドルフ・ヘス副黨首は、黨務全般を委任されて、突擊隊の組織を改めた後の、ナチス再建の重任に當ることゝなつたのである。

玆に於て、ヒットラーは、此の三人の上に臨んで、一寸「三頭政治」に似た組織を統べることとなつたのである。

卽ち、ヒットラーの「黨卽國家」の大理想は實現され、いよ〳〵施政の實をあげんとして居るのだ。

ナチスの陣容は成つたのである。そして、ドイツの眼は何處へ注がれるか？

風樓に滿つる中歐

フランスは、その外相バルツー氏に、東歐諸國を歴訪させて、東歐相互援助條約を成立させやうとした。これは、露國を中心として、エストニア、ラトヴィア、リスアニアのバルチック三國ポーランド、ドイツ、チエッコスロバキアの諸國を參加せしめやうとしたものであつた。

が、これが、要するに佛露協定をカムフラージするものであると判つたポーランドは、早くも以前仇敵だつたドイツと握手してしまつた。

勿論、ナチスのヒットラーは、最初から軍備平等權の獲得を要求して居り、東歐條約加入などは反對である。

しかも、フランスは佛露協定に英國の諒解を求め、東歐條約に贊成を求めたのであるが、英國は第一にドイツの加入と、新條約が同盟の性質を帶ばないことを條件として、贊意を表したのであつた。

處が、ドイツの參加は絶望であり、しかも東歐條約と云ふものは、要するに佛露同盟のカムフラージである事が判明して、英國の態度は、がらりと變つてしまつたのである。

從つて、イタリーの態度も今も變化しやうとして居り、フランスのカムフラージ策は、正に失敗に歸せんとして居るのである。

ヒットラーの、ナチスの、ドイツの復讐戰の疑念に、恰度、忠臣藏の吉良上野介が、赤穗浪士の復讐に戰々恟々として、付人を召し抱えるやうな氣持ちのフランス、今や頻りと、ロシアを大切にし、之に賴らんとしつゝある、その結果は、どうなるか？

ムツソリニではないが、或は、明日の戰雲でなく、今日の戰雲であらうか？

とにかく、世界の癌、中歐をめぐつて、ヒットラーの今後の動きが、ナチスの動きが、どうなるか？　それは遠い將來ではなく、近く何かを見せてくれるやうな氣がする。

おゝ！　中歐に、雷雨正に來らんとして風樓に滿つるか!?

摑め、新しい動きを！

パンフレットの共同購入に就て

社會萬般の新らしい動きは、新聞のニュースでほゞ判りますが、御承知の通り新聞の報道は、斷片的で簡略に失し、事相の全貌を摑み難い憾みがあります。この不滿を充してくれるものは單行本ですが、單行本は價が高く、且つ記述が詳細煩多に流れ、一寸購つてみる氣にならないのが普通であります。

現代出版界の先端を行くパンフレットの類は、新聞と雜誌、乃至は雜誌と圖書との間を行く性質のもので記述は簡潔明快で解りが早く、價は十錢二十錢の廉價であります。知識慾に燃え盛る忙がしい人々の必讀すべき出版物であります。

本社はパンフレットの專門出版社として、一流の地歩を占め、政治・經濟・外交・社會・兵事・趣味にわたり將來各種各樣のものを出版する計劃でありますから、何卒御愛顧の程を願ひ上げます。既に左記の書目を發行致して居りますから、御愛讀の程を願ひ上げます。十部以上御注文の方には割引の特典があります。御申越次第規定書進呈致します。（農藝社）

定價各一部十錢（送料二錢）

松波治郎著 秘史	あゝ奉天開城	野崎信夫述	春播野菜	山本實著	世界ギヤング行狀記	山本實著	國際スパイ戰秘話
松波治郎著 秘錄	日本海大海戰	野崎信夫述	秋播草花（特價二十錢）	保險調査會編	保險のからくり（特價二十錢）	菅野秀雄著	明年の軍縮會議（特價十五錢）
						耕堂學人著	政黨政治の再建

東京市中野區大和町三一六　農藝社　振替東京四九〇六九番

昭和九年九月二十三日印刷納本
昭和九年九月二十五日發行

ナチスの動き
〔定價金拾錢〕

著者　松波治郎

發行者　東京市中野區大和町三一六番地　野崎信夫

印刷所　東京市小石川區表町八十二番地　勇昌堂中橋印刷所

發行所　東京市中野區大和町三一六
振替東京四九〇六九番　農藝社
電話四谷(85)三二〇五番

不許複製

終

卐

東京 農藝社 發行